

# 病害虫情報(第1号)4月予報

令和8年3月27日  
神奈川県農業技術センター

病害虫防除部 TEL 0463 - 58 - 0333  
ホームページ <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/>

## 【内容】

- I 4月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例 ..... 1  
【水稲、コムギ、カンキツ、ナシ、ウメ、チャ、促成トマト、促成・半促成キュウリ、促成イチゴ、露地トマト、露地キュウリ、ナス、春キャベツ】
- II 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠 ..... 10

- 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し、遵守すべき基準を守り、飛散防止に努めましょう。
- 掲載農薬は一般的な場合を想定し、防除効果を優先して選定しています。
- ※ 農薬に関する情報は、令和8年3月25日までの農薬登録情報に基づいて記載しています。

## I 4月の主な病害虫の発生予報、防除要否、使用する薬剤例

### 【水稲】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
ばか苗病	—	○	【塗沫処理(30ml/乾燥種粃1kg)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
いもち病	—	○	(予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 7.5倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 100倍
イネシンガレ センチユウ	—	○	【種子浸漬(24時間浸漬)】 (予・治) テクリードCフロアブル [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 (予・治) ヘルシード乳剤 [浸種前,1回] 200倍 + スミチオン乳剤 [は種前,1回] 1,000倍 等
苗立枯病	—	○	【育苗箱施薬】 (予・治) タチガレエースM粉剤 [は種前,1回] 6~8g/箱 + (予) ダコニール粉剤 [は種前,1回] 15~20g/箱 等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

### 【コムギ】

生育:並(普及指導部:ゆめかおり、さとのそら)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
赤かび病	—	○	(予・治) トップジンM水和剤 [14日,3回(出穂期以降は2回)] 1,000~1,500倍 (予・治) トリフミン水和剤 [14日,3回] 1,000~2,000倍 等 ◆ 出穂期以降に高温と降雨が続いたり、日照時間が少ないなどの多湿条件で感染しやすい。 ◆ 薬剤は、「開花始め~開花期」と「開花期の7日後」の2回散布するのが効果的である。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

【カンキツ】 生育:並(足柄地区事務所研究課:普通温州)

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
そうか病	並	○	(予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 (予) デランフロアブル [30日,3回] 1,000倍 等 ◆ 前年発生したほ場では、新芽が出揃った4月上旬に必ず散布する。 ◆ イデクリーンは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
かいよう病 (中晩柑類)	やや少	○	(予) コサイド3000 [生育期,-] 2,000倍 +クレフノン[-,-] 200倍 (予) ICボルドー66D [-,-] 25~200倍 + アビオン-E [-,-] 500~2,000倍 (予) イデクリーン水和剤[-,-] 400~800倍 + クレフノン[-,-] 200倍 等 ◆ 3月中下旬に農薬散布していない場合は、4月上中旬に防除する。 ◆ イデクリーンとICボルドー66Dは、マシン油乳剤との混用および14日以内の近接散布を避ける。
ミカンハダニ	やや多	○	マシン油乳剤(97%, 98%) 等 ◆ マシン油乳剤は商品によって希釈倍数・使用時期が異なるので、ラベルの記載に従うこと。 ◆ 冬期に防除しなかった園は、発芽後に防除する。
ミカンナガタマムシ	—	△	◆ 被害の確認される園では、成虫発生源となるため、被害の激しい樹を伐採し、園外で適切に処分を行う。 ◆ <a href="#">詳細は、令和7年4月16日発表の「病害虫情報 号外 第3号」を参照する。</a>

## 【ナシ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
赤星病	—	○	【開花前】 (予・治) インダーフロアブル [7日,3回] 赤星病:8,000~12,000倍 黒星病:5,000~12,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [14日,5回] 黒星病:1,500倍 【落花期】
黒星病	やや少	○	(予) トレノックスフロアブル [30日,5回] 500倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [14日,3回] 2,000~4,000倍 等 ◆ 黒星病の花そう基部発病部は、見つけ次第取り除く。
アブラムシ類	—	○	ダイアジノン水和剤34 [14日,6回] 1,000~1,500倍 等
ニセナシサビダニ	—	○	モベントフロアブル [14日,3回] 2,000倍 等 ◆ モベントフロアブルは新梢の展開葉から吸収されるので、葉が2~3枚展開したのを確認して散布する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【ウメ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
かいよう病	—	○	(予・治) マイコシールド [21日,4回] 1,500倍 等 ◆ 強風雨時に感染するので、多発園では降雨前の散布を心掛ける。
黒星病	—	○	(予) デランフロアブル [14日,2回] 1,500～2,000倍 (予・治) ストロビードライフロアブル [7日,3回] 2,000～3,000倍 等
カメムシ類	並	△	アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [前日,3回] 2,000倍 ダントツ水溶剤 [前日,3回] 2,000～4,000倍
アブラムシ類	—	○	等

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【チャ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
カンザワハダニ	並	○	バロックフロアブル [14日,1回] 1,000～3,000倍 ダニゲッターフロアブル [7日,1回] 2,000倍 等 ◆ 3月に上記薬剤を散布しなかったほ場では防除すること。
ツマグロアオカスミカメ	—	△	【4月上中旬】 キラップフロアブル [7日,1回] 2,000倍 アルバリン 又は スタークル顆粒水溶剤 [7日,2回] 2,000倍 等 ◆ 例年多発するほ場では防除する。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント										
灰色かび病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 灰色かび病: 7.5～15g/10a/日										
葉かび病	—	○	(予・治) フルピカフロアブル [前日, 4回] 灰色かび病: 2,000～3,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 等 ◆ 発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ◆ 灰色かび病対策には、葉先の枯れた部位や花がらをこまめに取り除くとともに、換気等により施設内の湿度低下に努める。また、不要な下葉は整理し、風通しをよくする。										
うどんこ病	並	○	(予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, - :ダクト内投入] 15g/10a/日 (予・治) パルミノ [前日, 5回] 2,000倍 (予・治) アフェットフロアブル [前日, 3回] 2,000～4,000倍 (治) サンクリスタル乳剤 [前日, -] 300～600倍 (治) ベミデタッチ [前日, -] 500倍 等 ◆ 近年、4月以降にうどんこ病の発生が目立つため、病斑が確認される前から予防的に薬剤散布を行う。										
コナジラミ類 タバココナジラミ オンシツコナジラミ	並 並	○ ○	モスピラン顆粒水溶剤 [前日, 3回] 2,000倍 ディアナSC [前日, 2回] コナジラミ類: 2,500倍、アザミウマ類: 2,500～5,000倍 チェス顆粒水和剤 [前日, 3回] コナジラミ類: 5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日, -] コナジラミ類: 300倍 ベミデタッチ [前日, -] コナジラミ類: 500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ◆ <a href="#">タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。</a>										
アザミウマ類	やや少	○	<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td rowspan="2">アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> </tr> </tbody> </table> ◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。 ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。 ◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)	TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)
発生するウイルス病	媒介する害虫												
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類												
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類												
ToCV(トマト黄化病)													
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類												
CSNV(トマト茎えそ病)													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、マルハナバチの巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

# 病害虫情報

(令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成・半促成キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
べと病	やや多	○	(予) アリエッティ水和剤 [前日,3回] 400～800倍 (予・治) ゴーベックエンテクタSE [前日,2回] 4,000倍 ☞ ゴーベックエンテクタは混合剤。総使用回数に注意する。 (治) エトフィンフロアブル [前日,4回] 1,000倍 等 ◆ 風通しを良くし、適切な施肥管理を行う。									
うどんこ病	やや少	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 (予・治) スコア顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000倍 (予・治) ショウチノスケフロアブル [前日,2回] 2,000倍 等 ☞ ショウチノスケは混合剤。総使用回数に注意する。									
灰色かび病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 灰色かび病: 1,000～2,000倍									
菌核病	—	○	(予) セイビアーフロアブル20 [前日,3回] 1,000～1,500倍 (予・治) ベルクートフロアブル [前日,7回] 2,000倍 等									
アブラムシ類	並	○	ベストガード水溶剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類: 1,000～2,000倍									
コナジラミ類			ミナミキイロアザミウマ: 1,000～2,000倍 モスピラン顆粒水溶剤 [前日,3回]									
オンシツコナジラミ	並	○	アブラムシ類、アザミウマ類: 2,000～4,000倍									
タバココナジラミ	やや多	○	コナジラミ類: 2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回]									
アザミウマ類			アブラムシ類、コナジラミ類: 4,000倍									
ミナミキイロアザミウマ	並	○	モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍									
ミカンキイロアザミウマ	並	○	グレーシア乳剤 [前日,2回] コナジラミ類、アザミウマ類: 2,000倍 等									
			◆ <a href="#">タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。</a>									
			◆ ウイルス病の感染を防ぐためにも害虫の防除を徹底する。									
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table>	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
			◆ 施設開口部に0.4mm目合い以下の防虫ネットを2重被覆する。									
			◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。									
			◆ 施設内外の雑草は、害虫の発生・増殖源になるため、除草を徹底する。									

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【促成イチゴ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
灰色かび病	並	○	(予) インプレッションクリア [発病前～発病初期, -] 1,000～2,000倍 (予) ボトキラー水和剤 [発病前～発病初期, -:ダクト内投入] 灰色かび病:10～15g/10a/日、うどんこ病:15g/10a/日
うどんこ病	やや少	○	(予) サンヨール [前日, 6回] 灰色かび病:500倍、うどんこ病:500～1,000倍 (予・治) ロブラール水和剤 [前日, 4回] 灰色かび病:1,500倍 (治) カリグリーン [前日, -] 灰色かび病:800倍、うどんこ病:800～1,000倍 (治) エコピタ液剤 [前日, -] うどんこ病:100倍 (治) サフオイル乳剤 [前日, -] うどんこ病:300倍 等
			◆ 灰色かび病の発病部位は速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。 ◆ うどんこ病対策として、適宜古葉を除去し、風通しを良くする。
アブラムシ類	並	○	コルト顆粒水和剤 [前日, 3回] 3,000～4,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍
コナジラミ類			エコピタ液剤 [前日, -]
オンシツコナジラミ	やや少	○	アブラムシ類:100倍、コナジラミ類:100～200倍
タバココナジラミ	やや少	○	サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等
アザミウマ類	並	○	グレーシア乳剤 [前日, 2回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日, 4回] 1,000～2,000倍 モベントフロアブル [前日, 3回] 2,000倍 等
ハダニ類	やや少	○	ダニオーテフロアブル [前日, 2回] 2,000倍 エコピタ液剤 [前日, -] 100倍 サフオイル乳剤 [前日, -] 300～500倍 等
			◆ ダニオーテフロアブルは、銅を含む製剤との混用および近接散布に注意が必要である。必ず、ラベルの注意事項を確認すること。

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
[使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

- ▶ 訪花昆虫・天敵を利用する際は使用薬剤の影響日数に注意して薬剤の選択を行う。
- ▶ 農薬散布の際は、ミツバチの巣箱を施設から出し、巣箱を再導入する前には、換気を十分に行い、薬液が乾いていることを確認すること。

# 病害虫情報

(令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【露地トマト】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント												
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1~2g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 <b>【定植時:粒剤施用】</b> モスピラン粒剤 [定植時,1回:植穴土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] コナジラミ類:2,000倍、アザミウマ類:1,000~2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 ベミデタッチ [前日,-] コナジラミ類:500倍 等 ☞ ベミデタッチは成虫飛来前や発生初期に使用し、7日間隔で複数回散布する。 ◆ <a href="#">タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。</a> ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(トマトモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>TYLCV(トマト黄化葉巻病)</td> <td>コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>ToCV(トマト黄化病)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>TSWV(トマト黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> <tr> <td>CSNV(トマト茎えそ病)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類	TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類	ToCV(トマト黄化病)		TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類	CSNV(トマト茎えそ病)	
発生するウイルス病	媒介する害虫														
CMV等(トマトモザイク病)	アブラムシ類														
TYLCV(トマト黄化葉巻病)	コナジラミ類														
ToCV(トマト黄化病)															
TSWV(トマト黄化えそ病)	アザミウマ類														
CSNV(トマト茎えそ病)															
コナジラミ類	—	○													
アザミウマ類	—	○													

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和8年度・第1号・4月) …………… 神奈川県農業技術センター

## 【露地キュウリ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント									
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロソソ粒剤オメガ [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] アブラムシ類:原液25mlを2~20Lに希釈/400株 コナジラミ類、アザミウマ類 :原液25mlを10~20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 <b>【定植時:粒剤施用】</b> アドマイヤー1粒剤 [定植時,1回] アブラムシ類、アザミウマ類:1~2g/株:植穴又は株元土壌混和 コナジラミ類:2g/株:植穴土壌混和 モスピラン粒剤 [定植時,1回:株元散布] アブラムシ類:0.5~1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,3回] コナジラミ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 ディアナSC [前日,2回] コナジラミ類:2,500倍、アザミウマ類:2,500~5,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍 等 ◆ <a href="#">タバココナジラミについて、防除情報(病害虫情報 号外 第7号)を令和7年12月23日に発表している。</a> ◆ 生育初期にウイルス病に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の害虫防除を徹底する。 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>発生するウイルス病</th> <th>媒介する害虫</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CMV等(キュウリモザイク病)</td> <td>アブラムシ類</td> </tr> <tr> <td>CCYV(キュウリ退緑黄化病)</td> <td rowspan="2">コナジラミ類</td> </tr> <tr> <td>BPYV(キュウリ黄化病)</td> </tr> <tr> <td>MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)</td> <td>アザミウマ類</td> </tr> </tbody> </table> ◆ ウイルス病発病株は抜き取り、土中に埋めるなど適切に処分する。	発生するウイルス病	媒介する害虫	CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類	CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類	BPYV(キュウリ黄化病)	MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類
発生するウイルス病	媒介する害虫											
CMV等(キュウリモザイク病)	アブラムシ類											
CCYV(キュウリ退緑黄化病)	コナジラミ類											
BPYV(キュウリ黄化病)												
MYSV、WSMoV (キュウリ黄化えそ病)	アザミウマ類											
コナジラミ類	—	○										
アザミウマ類	—	○										

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報

(令和8年度・第1号・4月)

神奈川県農業技術センター

## 【ナス】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
アブラムシ類	—	○	<b>【育苗期:粒剤施用】</b> ベストガード粒剤 [育苗期,1回:株元処理] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 アルバリン 又は スタークル粒剤 [育苗期,1回:株元散布] アブラムシ類:1g/株、コナジラミ類:1~2g/株 <b>【育苗期後半~定植時:粒剤施用又は灌注】</b> プリロツ粒剤オメガ [育苗期後半~定植時,1回:株元散布] 2g/株 ベリマークSC [育苗期後半~定植当日,1回:灌注] 原液25mlを10~20Lに希釈/400株 ☞ 上記2剤は成分が同じであるため、どちらかを使用する。 <b>【定植時:粒剤施用】</b> ダントツ粒剤 [定植時,1回:植穴処理土壌混和] アブラムシ類、コナジラミ類:1g/株 <b>【育苗期~定植後:散布】</b> モベントフロアブル [前日,3回] 2,000倍 マッチ乳剤 [前日,4回] アザミウマ類:2,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] アブラムシ類、コナジラミ類:4,000倍 サンクリスタル乳剤 [前日,-] アブラムシ類、コナジラミ類:300倍
コナジラミ類	—	○	
アザミウマ類	—	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

## 【春キャベツ】

病害虫名	発生予報 (平年比)	防除要否	使用する薬剤例 ◆防除のポイント
菌核病	並	○	(予・治) シグナムWDG [7日,2回] 1,500倍 ☞ シグナムは混合剤。総使用回数に注意する。 (予・治) パレード20フロアブル [前日,3回] 2,000~4,000倍
【横浜・藤沢地区】	並	○	
【三浦半島地区】	並	○	◆ 菌核病は、株元まで薬液が届くように早い時期からの予防に努め、 発病株は早期にほ場外で処分する。
コナガ	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,5回] 1,000~2,000倍 エスマルクDF [発生初期(但し、前日),-] 1,000~2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 [前日,3回] 2,000~4,000倍
【横浜・藤沢地区】	やや少	○	
【三浦半島地区】	やや少	○	
アブラムシ類	並	○	モスピラン顆粒水溶剤 [7日,5回] 2,000~4,000倍 コルト顆粒水和剤 [前日,3回] 3,000~4,000倍 ウララDF [前日,2回] 2,000~3,000倍
【横浜・藤沢地区】	やや多	○	
【三浦半島地区】	やや多	○	

[防除要否] ◎:追加防除が必要 ○:通常防除 △:必要に応じて防除 ×:防除の必要なし  
 [使用時期] 「収穫\*日前まで」を「\*日」に、「収穫前日まで」を「前日」に省略

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …… 神奈川県農業技術センター

## II 4月の気象予報と病害虫発生予報の根拠

### (1) 4月の気象予報(気象庁 3月24日発表3か月予報)

#### 〈天 気〉

天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

#### 〈要素別予報〉

	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間*	50%	30%	20%

\*3月19日発表1か月予報による。

### (2) 4月の病害虫発生予報の根拠

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
カンキツ	そうか病	—	並	1) 前年10月の巡回調査では、葉での発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	かいよう病(中晩柑類)	少	やや少	1) 県予察ほ(根府川)では、春枝の越冬病斑の発生が平年よりやや少ない。(—) 2) 前年10月の巡回調査では、発生が平年より少ない。(—) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	ミカンハダニ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)では、無防除区で発生が平年より少なく、慣行防除区で発生が平年よりやや少ない(—)。 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(+)
ナシ	黒星病	少	やや少	1) 前年9月の巡回調査では、徒長枝での発生は平年より少なく、短果枝では平年よりやや少ない(—)。 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
果樹全般	カメムシ類	—	並	1) 落葉内のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年よりやや多い。(+) 2) 県予察ほ(根府川)のチャバネアオカメムシ成虫越冬数は、平年よりやや少ない。(—) 3) カンキツ枝の叩き出し調査におけるツヤアオカメムシ越冬成虫数は、平年よりやや少ない。(—) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(+)
チャ	カンザワハダニ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 叩き出し調査では、落下虫数が平年よりやや少ない。(—) 3) 県予察ほ(寸沢嵐)では、発生が平年並。(±) 4) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(+)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (—):少発要因

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成トマト	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	うどんこ病	少	並	1) 巡回調査では、発生が過去7年平均より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	アザミウマ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
促成・半促成キュウリ	べと病	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年より多い。(+) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	ミナミキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	ミカンキイロアザミウマ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (+):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …… 神奈川県農業技術センター

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
促成イチゴ	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	うどんこ病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(±)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	オンシツコナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	タバココナジラミ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	アザミウマ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	ハダニ類	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
春キャベツ (横浜・藤沢)	灰色かび病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年並。(±) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	コナガ	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、横浜、伊勢原、県予察ほ(上吉沢)ともに平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	アブラムシ類	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) 県予察ほ(上吉沢)の黄色水盤への飛来量は、平年並。(±) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因

# 病害虫情報 (令和8年度・第1号・4月) …… 神奈川県農業技術センター

三浦半島地区野菜

作物名	病害虫名	発生量		予報の根拠
		程度	平年比	
春キャベツ	灰色かび病	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	菌核病	少	並	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや少ない。(－) 2) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	コナガ	少	やや少	1) 巡回調査では、発生が平年より少ない。(－) 2) フェロモントラップへの誘殺数は、三浦、県予察ほ(三浦)ともに平年よりやや少ない。(－) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)
	アブラムシ類	少	やや多	1) 巡回調査では、発生が平年よりやや多い。(＋) 2) 県予察ほ(三浦)の黄色水盤への飛来量は、平年より多い。(＋) 3) 気温は平年より高く、降水量は平年並か高い予報。(＋)

※「発生量」…………… 程度:甚>多>中>少>無 平年比:多>やや多>並>やや少>少  
「予報の根拠」…………… (＋):多発要因 (－):少発要因